

「ウミガメ倶楽部」発足

鴨川有志31人の保護ときれいな海保全に活動



ウミガメ倶楽部の役員ら＝鴨川

ウミガメの保護活動を通じて、海洋や海浜など自然環境保全に取り組もうという市民グループ、ウミガメ岸では、毎年、アカウミガ

メの産卵が確認されており、同会では「ウミガメは本市の豊かな自然環境を構成する野生動物で、貴重な財産。保護活動を通じて、この環境を将来に残して行きたい」と話している。

鴨川市は、太平洋に面した長い海岸線を持ち、白砂青松の東条海岸では毎年、アカウミガメの産卵が確認されている。しかし、地球規模での環境破壊に加え、地域のさまざまな開発行為などもあって、その環境は悪化の一途をたどっている、という。

同会は「このまま放置しておくと産卵、ふ化は激減し、絶滅の恐れがある」とし「これに対する効果的な保護対策を研究提示し行動することが、地域の美しい海浜、世界の海洋保全にもつながる」と、市内の有志

31人が集まり発足した。

先ごろ、設立総会が同市にあるキャンピングヒルズ鴨川で開かれた。会では、設立までの経緯が説明された後、役員の出選や規約を制定。会長には、医学博士でもある椎野瑞穂さんを選出した。

取り組みとしては①ウミガメ類を取り巻く自然環境の保全②ウミガメ類の研究・保護活動の発展および育成③地域環境改善のため、温暖化防止策の研究、河川と海浜、森林保全活動の推進――など5事業を展開していくことを決めた。

総会後は、国内最大規模のウミガメ保護組織であるNPO法人日本ウミガメ協議会の研究員で、東京大学大学院農学生命科学研究科の石原孝氏による「ウミガメの保護・育成と海浜環境の保全」と題した講演が行われ、ウミガメの生態や保護の問題点を勉強した。他の役員は次のとおり。

▽顧問＝小川裕通▽相談役＝大久保啓次郎▽副会長＝須田厚、ベアトリス・イトウ▽幹事＝光永勲、白田逸茂、佐々木義祐、二川康伸、浦松幹雄▽事務局長＝

小磯隆▽監事＝原敏